# 1　研究の概要

## (1)　研究主題

中学校技術・家庭科における情報モラルへの関心を高め理解を深めるための授業づくり
－話し合う活動を取り入れた授業づくりを通して－

## (2)　主題設定の趣旨

中学校学習指導要領（平成 29 年３月）には「生徒の発達段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする」とあります。また、技術・家庭科（技術分野）（以下、技術科とする）の指導内容には、Ｄ情報の技術（１）アの項目に、「情報の表現、記録、計算、通信の特性等の原理・法則と、情報のデジタル化や処理の自動化、システム化、情報セキュリティ等に関わる基礎的な技術の仕組み及び情報モラルの必要性について理解すること」と明記してあります。タブレットやスマートフォンをはじめとする様々な情報端末の普及は、ＩＣＴ機器を利活用した授業づくりを可能にし、高い利便性をもたらす一方、ＳＮＳでのトラブルやネット依存等、新たな問題も発生させています。新しい学習指導要領では、技術科・特別の教科道徳などの教育活動全般で情報モラル教育を行い、インターネットや情報端末などを適切に活用できる力と態度の育成が求められています。

平成 28 年度通信利用動向調査（総務省）の結果では、携帯電話やスマートフォン等の所有率の増加とともにインターネットの利用が拡大し、小学生で約 82%、中学高校生で 98%が日常的にインターネット端末を利用している実態があります。さらに、児童生徒が情報端末を個人で所持する時期も低年齢化する傾向があり、生徒のＳＮＳや無料アプリ、無料ゲーム等の利用も年々増加しています。小学生からの情報モラル教育の実施により、情報モラルの知識は徐々に身に付いてきているものの、簡単な操作で情報の転載や発信ができてしまうため、自分の行動が周囲に与える影響を深く考えることなく安易な情報の発信を行ってしまう生徒が見受けられます。様々な情報端末の普及による新たな課題の特徴として、誰もが情報の受け手だけでなく送り手としての役割を担うようになったことが挙げられます。今後起こりうる新たな危険や問題に対して適切な判断ができるようにするためにも、情報社会に積極的に参画する能力と態度を育成することが大切です。

本研究では、社会の情報化の進展が生活に及ぼす影響について具体的な事例を通して理解させるとともに、情報モラルについて話し合わせることで、情報社会の様々な問題に対する当事者意識を持たせ、適切に判断する能力を育てます。情報端末は使い方を間違わなければ便利なツールです。トラブルになるから使わない方がよいものだという禁止するような指導を行うのではなく、インターネットの特性をよく理解させた上で、適切に活用していこうとする態度を養います。また、身近な事象を扱うことで生徒の興味・関心を高め、話し合う活動や保護者との意見交換を通して、情報モラルを多角的に考察し、自らの考えを広げ深めさせる方法を探ります。

## (3)　研究の目標

情報に関する技術の学習において、情報モラルへの関心を高め、理解を深めるために、話し合う活動を取り入れ、情報端末を適切に活用していこうとする態度を育成する指導法の工夫を探る。

## (4)　研究の仮説

技術科における授業において、身近な事象を扱った情報モラルを題材に生徒の興味・関心を高め、話し合う活動や意見交換（保護者を含む）を通して話し合わせることができれば、情報モラルを多角的に考察し、情報モラルへの理解を深め、インターネットや情報端末などを適切に活用していこうとする生徒を育成することができるであろう。

## (5)　研究方法

①　先行研究や実践事例を基に、情報モラル教育の充実を図る指導法に関する理論研究

②　問題解決に向けた話し合う活動の充実を図る手立てを研究し、関心を高め理解を深める学習指導に向けた検証授業

③　情報を複数の視点から話し合い、判断した根拠を明確にして、考えたことを説明する力の変容の分析・考察

## (6)　研究内容

①　他校種・他教科における情報モラル教育に関しての先行研究調査や文献研究を行います。

②　１年生の情報に関する技術の学習において、関心・理解を深める指導法を取り入れた検証授業を行います。その際、問題解決に向けた話し合う活動の充実を図る手立ての有効性を分析します。

③　情報について複数の視点から話し合い、判断した根拠を明確にして、考えたことを説明する力の変容、及び関心の高まりと理解の深まりを分析・考察し、研究の妥当性を検証します。